# 同窓会だより

## ノーベル賞をめざす新進気鋭真和OB医学者

### 生命科学研究を志して

熊本大学大学院医学薬学研究部
微生物学分野　教授
赤池　孝章（13期生）

私は昭和五〇年に真和高校に入学して、三年間の学生・寮生活の後そのまま熊本大学医学部に入学しました。高校と医学部がありました九品寺・本荘地区でかれこれ三〇年程暮らしています。さらに今後、熊本大学に定年まで勤めたといたしますと、半世紀という恐ろしく長い時間をこの地域で過ごすことになります。

そこでまず私の勤務先である熊本大学医学部について簡単にご紹介いたします。熊本大学は一昨年より法人化され、正式名称は国立大学法人熊本大学となり、この数年大きな変革の波が押し寄せています。これまでも、熊本大学医学部には様々な変遷がありますが、その源流・母体を二五〇年前まで遡ることができまして日本の医学界の中でも最も長い伝統を持っています。また、この長い歴史の中で、北里柴三郎をはじめとして、国内のみならず世界的にも高名な錚々たる人材を輩出してきました。本学医学部では、平成一五年度、法人化に先立ち、大学院を中心とした部局化・組織再編成が行われ、現在の大学院医学薬学研究部という部局名になりました。この大学院部局化の際、講座制から大講座制へ移行し、私の所属は組織上、感染・免疫学講座　微生物学分野となりました。なお、私どもの微生物学分野の原点は、医学部の前身の一つである熊本医学専門学校時代の明治四〇年（一九〇七年）まで遡り、来年（二〇〇七年）で開設一〇〇周年を迎えます。一〇〇年前の微生物学の黎明期においては、ウイルスなどの病原性はあまり解明されていませんでしたので、当時、微生物学では主に細菌が取り扱われていました。現在はどの大学でも、微生物学は細菌学とウイルス学に分かれて教育と研究が行われていまして、熊本大学の学部教育において、私は細菌学を担当しています。

さてここで、私が微生物学研究あるいは生命科学研究を志した動機について少し触れることにいたします。実は、真和高校在学中より、生物学関連分野の学部に進むことを希望していました。大学の進路を決める際に当初は、九州大学の理学部を受験してうまく合格できれば、将来は研究者になりたいと考えていました。当時クラス担任であった江上先生や親戚の勧めもあって、最終的には、熊本大学医学部を受験いたしましたが、今から思うと、当時より研究者への志向性が強かったのかもしれません。医学教育においては、理想の医師像が『ヒポクラテスの誓い』などでも説かれていますが、私の場合正直なところ、この様な気高い志をもって医学の道を目指したわけではありませんでした。実際、医学部に入学した当時は、医者になりそこなっても基礎研究へ進むオプションもあるだろうという、案外いい加減な気持ちでいたように思います。また、医学部在学中は、勉学そっちのけで水泳部の課外活動に熱を入れていましたので必ずしも優等生ではありませんでした。それでも、医学部では単位を無事修得し国家試験に合格して何とか臨床医の資格を取得することができました。卒業後は、大学病院の第一内科に入局して三年間の内科研修の後、大学院に入学いたしました。医学部時代から微生物学に興味を持っていましたので、特に感染症学に力を入れて勉強しました。さらに大学院では、現在私が所属しています微生物学教室において基礎研究を本格的に開始しました。今から二〇年程前になりますが、大学院入学直後に研究者への道を決定づけた大きな研究テーマに出会いまして現在に至っております。熊本大学でこれまで取り組んできた研究は、主に、細菌やウイルスの病原性発現メカニズムの解明と新興感染症対策などです。研究内容の詳細につきましては、専門的なお話になりますのでここでは割愛させていただきますが、必ずしも〝病原体そのもの〟の毒性を見るのではなく、病原体に対する生体の反応を中心に解析しますと、感染症において様々な生体反応をもたらす活性分子の機能を解き明かすという生命科学的な研究を行っています。基礎学・臨床に還元され、皆さんのお役に立てるものではありませんが、基本的には、前にも述べましたような高校時代の人生設計に沿って、楽しく仕事に取り組んでいます。医学部に入学して医師免許を取得しながら、今は医者をやっていませんので、医師になるために医学部や研修医の間に学んだことが多少無駄になったかもしれませんが、紆余曲折しながらも何とか天職に就くことができたのではないかとそれなりに満足しているところです。

さて、当然のことではありますが、医師養成が医学部の教員に課せられた重要なミッションです。一方で、科学技術大国を目指す日本の大学に求められているものは、先端的科学技術の開発と教育や学術研究を支える優秀な若手人材の育成であり、このことは医学部においても例外ではありません。特に、大学法人化後は、文部科学省から交付される大学運営経費の削減などの問題から、いずれの旧国立大学においても、運営方法の大幅な改革・改善を迫られています。この様な変革の時代にあって、今後医学部においては、医師養成のみならず、日本の科学技術の発展に貢献できる、また、将来の日本の生命科学を担う研究者の育成が大変重要な課題となってきます。

最近は、以前に比べて真和高校から熊本大学医学部への入学者も増えて、しかも、真和出身の優秀な医学生も随分多くなってきました。このことは、熊本医学教育に携わる者として、また、真和高校の卒業生として、大変嬉しいことだと思っていますが、ここで、後輩の皆さんにお伝えしたいメッセージがあります。学生時代には、受験や大学での単位、学位、資格取得など、目の前のハードルばかりが気になることでしょうが、それらのハードルをクリアした後の人生をどう生きるか、社会人としての責任を果たすこともちろん大切ですが、それ以上にいつも高い志と夢を持って、努力を惜しまず、日本だけでなく世界の大舞台で活躍できる人材に育っていただきたい。常に高い視点から自分の進むべき道を見据えて、自分の力を信じて志を全うできるように頑張ってもらいたいと思います。また、皆さんの人生のオプションは様々でしょうが、医学教育・研究の立場から言わせていただければ、真和高校から、日本の医学や科学・学術、あるいは、生命科学研究に貢献される方が一人でも多く輩出されることを期待しているところです。最後になりましたが、真和高校時代の恩師の先生方に賜りました薫陶とご恩情に感謝いたします。また、真和高校の益々のご発展と、先生方、関係者各位、在校生・卒業生の皆さまのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

略　歴

赤池　孝章（あかいけたかあき）

| | |
|---|---|
| 1959年9月16日 | 熊本県人吉市生まれ |
| 1975年3月 | 人吉第一中学卒業 |
| 1975年4月 | 真和高校入学 |
| 1978年3月 | 真和高校卒業 |
| 1978年4月 | 熊本大学医学部入学 |
| 1984年3月 | 熊本大学医学部卒業 |
| 1984年4月 | 熊本大学医学部第一内科入局 |
| 1991年3月 | 熊本大学大学院医学研究科修了（医学博士） |
| 1991年4月 | 熊本大学医学部助手（微生物学講座） |
| 1992年2月 | 熊本大学医学部講師（微生物学講座） |
| 1993年5月 | トーマスジェファーソン医科大学客員教授 |
| 1994年1月 | 熊本大学医学部助教授（微生物学講座） |
| 2001年7月 | アラバマ大学バーミングハム校客員教授 |
| 2003年6月 | 文部科学省研究振興局学術調査官 |
| 2004年4月 | 東京大学大学院農学生命科学研究科非常勤講師 |
| 2005年4月 | 山形大学医学部非常勤講師 |
| 2005年7月 | 熊本大学大学院医学薬学研究部教授（微生物学分野） |

## 飛びたつ日のために

真和中学・高等学校育友会会長　野津原　昭

真和高等学校の今年の大学入試の結果は、皆さんもご存じのことだと思いますが、素晴らしい結果でした。この結果は皆さんの先輩が、真和ですごした学生生活を充実して送ったということの証拠だと思っています。本当に素晴らしいことだと思います。

しかし、最近の若者達をみていて気になることがあります。それは無気力な若者が増えてきていること、自己否定意識が高いことです。それがニートとかモラトリアム人間の増加として現れていると思います。ニート（NEET）とはNot in Employment, Education or Trainingの頭文字をとって作られた言葉で、働きもせず、学校にも行かず、職業訓練も受けず、何もしようとしない人間のことを指します。またモラトリアム人間とは大人になっているのに社会に出て社会人としての義務を果たそうとしない若者のことをいいます。また大人になりたくない人たちをピーターパン症候群という呼び方もありますね。このような現象が増えてきたのは、やはり日本社会が物質的に豊かになってきたためでしょう。また少子化で家族の中に占める子供の数が減ったために、一人一人が大事にされ手をかけられるようになってきました。そのこと自体はよいことのように思われますが、しかしそれが逆効果になってしまい、いつまでたっても親の庇護を当てにして、暖かい環境に浸っていたがる子供をつくってしまっているのかもしれません。

ところで皆さんはアホウドリという鳥を知っていますか。両翼2ｍ50cmぐらいある大きな海鳥です。大きすぎて羽ばたくだけでは飛べません。このアホウドリが生息している島は鳥島といって、ジョン万次郎が漂着した無人島です。アホウドリはひな鳥に両親が代わる代わるえさを運びます。しかしある程度ひな鳥が大きくなると、両親はひな鳥をおいてどこかに飛んでいってしまいます。さて置き去りにされたひな鳥は、えさをもらえなくなってしまいます。このままでは飢え死にです。そこでひな鳥が生きる道はたった一つしかありません。自分で羽ばたいて、飛んで、海に出てえさをとるしかありません。ひな鳥たちはとにかく懸命に羽ばたきます。しかしそれが、斜面を駆け下りながら羽ばたくもの、時々つまずいたりするものもいます。また羽ばたく練習もせずに隣の鳥にちょっかいを出すのもいます。しかし必ず西風は吹きます。チャンスは来るのです。その時にチャンスに気づいてうまく乗れるかどうかは普段の努力（羽ばたき）にかかっているということです。このような親離れは人間の世界にも必要なことではないでしょうか。

皆さんの今の時期は、ちょうどこの時期に当たるのではないでしょうか。親離れを控えて、社会に羽ばたいていく準備段階、懸命に羽ばたいてチャンスを待っている時期、人生の方向を決める非常に大事な時期を皆さんは過ごしています。いい風を決して逃さないで、大きく翼を広げ高く、遠く飛んで素晴らしい人生を送ってください。

## クラブ・同好会紹介

**［文化部］**

- 宗教部（飛永）
- 文芸部（北本・衛藤）
- 写真部（宮本・修）
- コーラス部（元田・菩提）
- オーケストラ部（長坂）
- 演劇部（衛藤）
- 生物部（歌岡・野口）
- 学園吹奏楽部（日野）
- 囲碁将棋同好会（國友・高洲）
- ESS同好会（北野・足立）
- リコーダー同好会（宮本・修）
- バドミントン部（田嶋・宮嶋）
- イラスト同好会（福岡）
- 卓球部（中島・赤司・影山）

**［運動部］**

- 軟式野球部（竹本・國武・中村彦）
- 空手部（小森・西村）
- 剣道部（松木）
- サッカー部（高・藤崎・川野）
- ハンドボール部（高・中・大村・野田）
- 女子新体操部（泗井）
- 弓道部（緒方・元田）
- バスケットボール部（高・長尾）
- バスケットボール部（中・高洲・足立）
- テニス部（横井・伊牟田・河原）
- 陸上部（高本・和田）

▲弓道部（男子）
県高校総体8位
熊本市弓道大会準優勝

▲バスケットボール部

▲軟式野球部

▲卓球部　6年連続県高校総体ベスト8
6年連続新人戦ベスト8

▲ハンドボール部（中高男子）
県高校総体ベスト16
県下中学ハンドボール選手権8位

▲コーラス部
NHK全国学校音楽コンクール熊本大会銀賞

▲オーケストラ部
県高校器楽コンクール弦楽合奏部門銀賞

▲学園吹奏楽部
県吹奏楽コンクール銀賞

### 平成十八年度生徒会役員名

◎生徒会長
原　淑大（II-5）

◎副会長
緒方　駿介（II-6）

◎代議員
白石　雅大（II-1）
加藤　啓明（II-2）
富永衣里子（II-6）
大石　拓実（II-4）
坂口　哲矢（II-5）

### ホームページ

真和中学・高等学校
http://www.shinwa.ed.jp

真和同窓会（杏葉会）
http://www.shinwa-dosokai.com

### 同窓会お知らせ

平成18年度真和中・高等学校
大同窓会（杏葉会）
講演会・総会・懇親会開催。

日時：平成18年6月10日（土）17時30分～
場所：熊本ホテルキャッスルにて